

環境とともに

ワタミグループは、「ワタミ環境宣言」を実現するため、環境（エコロジー）と経済（エコノミー）の両立（W-ECO）を目指し、ワタミエコロジーを中心として、環境活動を実践しています。

環境事業 限りある資源を有効利用し、持続可能な循環型社会づくりに貢献すること



「ワタミ環境宣言」と「W-ECOビジョン2020」の策定

ワタミグループは、1999年に、外食産業で初めてISO14001を本社とグループ外食店舗全店で取得するとともに、「ワタミ環境宣言」を発表しました。2008年には、事業活動の広がりを受け、グループ連結で活動を強化する宣言として、改めて「ワタミ環境宣言」を策定し、その実現を目指して環境活動に取り組んでいます。

また、2009年には、「ワタミ環境宣言」を実現させるための長期的な目標として、「W-ECOビジョン2020」を策定し、「2020年までにグループ全体の環境負荷(CO₂)を50%削減(2008年度比、売上高当り)」するという方針を掲げました。

ワタミ環境宣言

美しい地球を美しいままに、
子どもたちに残していく。

- 地球で事業活動を営む企業の責任として、その存在ゆえに生じる環境負荷を少しでも小さくする。
～地球の邪魔をしない存在となる～
- 環境活動が経済活動であることを証明して、他の企業を啓発する。
- グループの成長に伴い増え続ける国内外の従業員を介して「環境」に働きかける。その一人ひとりが生活の中で、常に「環境」を意識し、実質的に明日の地球の現実を変えていくための行動をとる。

ワタミグループ環境方針(W-ECOビジョン2020)

グループCO₂排出量を2020年までに50%削減
(2008年度比、売上高当り)

ワタミグループは、ワタミ環境宣言2008の考え方に基づき、W-ECOビジョン2020を環境方針として掲げます。このW-ECOビジョン2020達成のため、下記のとおり、3つのテーマに分けて環境活動を実施します。

1. 事業活動における環境負荷(CO₂)を低減します。
 - 外食事業、介護事業、高齢者向け宅配事業(※)で排出するCO₂を2020年度までに50%削減します。(※)現在は「宅食事業」に事業名が変更されています。
2. 循環型社会構築のため、環境改善事業を強化します。
 - 安全・安心な循環型社会構築のため、有機野菜の生産量拡大を目指します。
 - 外食事業・食品製造事業による食品廃棄物(生ゴミ)のリサイクルに努めます。
 - 環境教育や森林保全に取り組む「ワタミの森」の活動を促進します。
3. グループ社員一人ひとりの環境意識を向上させ、日々の環境改善を推進します。
 - 社員・パート・アルバイトが生活で排出するCO₂を2020年度までに30%削減します。

ワタミエコロジーでの取り組み

循環サービス

ワタミエコロジーの事業①

廃棄物の適正管理

ワタミエコロジー(株)(以下、ワタミエコロジー)は、法律を順守した廃棄物処理が行われているかを厳重にチェックし、適正価格かつ安全で安心なスキームが維持管理されるよう、お取引業者様と強固な関係を構築し、「廃棄物処理管理」というサービスを確立しています。

2013年度末現在、ワタミグループ関連会社だけではなく、外部企業72社からも業務を請け負っています。

また、ワタミエコロジーは、ワタミグループのすべての外食店舗、介護施設における産業廃棄物の収集において、「電子マニフェスト(※)」を導入しており、確実なマニフェスト管理を行っています。

※電子マニフェストとは：産業廃棄物の処理を委託する際に必要となる、産業廃棄物の名称、運搬業者名、処分業者名、取り扱い上の注意事項などを記載したマニフェスト(産業廃棄物管理票)の情報を電子化して、排出事業者、収集運搬業者、処分業者の3者が情報処理センターを介したネットワークで、正確な情報や、処理が適正にされているかを把握する仕組み。

廃油のリサイクル

ワタミエコロジーは、お取引業者様のご協力のもと、ワタミグループ外食店舗から回収された廃油を、飼料や工業油脂などの原料としてリサイクルしています。2014年度には、廃油をBDF(※)にリサイクルし、車両の運行実験を開始しました。2014年度中に、ワタミグループの各事業拠点へ商品を配送している車両の一部に、燃料としてBDFを使用していく計画です。

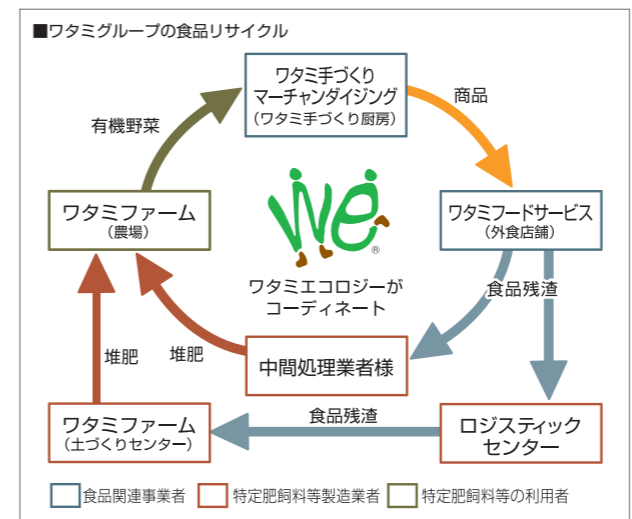
※ BDF(Bio Diesel Fuel、バイオディーゼル燃料)とは：菜種油、大豆油などの植物油や廃食油などを原料としてつくられる燃料。

食品リサイクルの推進

外食業界では、食品リサイクル法に基づき、企業ごとにリサイクル率の向上に取り組んでいます。ワタミグループは、ワタミエコロジーを推進役として、自社のみならず、業界のリサイクル率を向上させるため、企業連携を含めた食品リサイクル・ループ(※)の構築に取り組んでいます。2010年5月には、国内大手居酒屋チェーンとして初めて、環境省・農林水産省から食品リサイクル・ループの認証を取得しました。

2013年度末現在、262店舗のワタミグループ外食店舗と、13カ所すべてのワタミ手づくり厨房(以下、センター)の生ゴミをリサイクルしており、ワタミグループのリサイクル率は約60%(外食店舗：40%、センター：100%)です。

※食品リサイクル・ループ(再生利用事業計画認定制度)とは：農畜水産物等の利用までを含めた計画的な食品循環資源の再生利用の取り組みを主務大臣が認定することにより、再生利用の促進に関わる関係者の連携を推進するとともに、認定事業者による的確な再生利用の実施、廃棄物処理法の許可手続等の簡素化による効率的な再生利用の実施を確保する制度。制度上、食品関連事業者、特定肥料等製造業者、特定肥料等の利用者の三者で申請することとなっている。



ロジスティックセンターの開設

ワタミエコロジーは、2014年7月、東京都足立区に「ロジスティックセンター」を開設しました。「ロジスティックセンター」には、2014年7月末現在、関東圏の185店舗のワタミグループ外食店舗から排出された食品残渣や資源ゴミなど、リサイクルが可能な廃棄物を集約しています。資源ゴミを100%再利用するとともに、食品残渣の異物や水分を予め除去し、ワタミファームが運営する「土づくりセンター」へ搬入することで、良質な堆肥の製造を目指します。

空ビンのリユース・雑ビンのリサイクル

ワタミグループ外食店舗では、ワタミエコロジーを推進役として、ビン廃棄量を抑制するため、オリジナル日本酒の空ビンのリユースに取り組んでいます。2013年度末現在、392店舗でリユースを実施しています。また、全種類の雑ビンの回収、および全量リサイクルにも取り組んでいます。2013年度末現在、関東地方の327店舗と関西地方の87店舗で雑ビン回収・リサイクルを実施しており、約19t/年の廃棄物を削減し、資源の有効活用にご貢献することができました。

再生可能エネルギー

ワタミエコロジーの事業②

風力発電の取り組み

ワタミグループは、秋田県にかほ市の市民風力発電プロジェクトに参画し、1号機となるワタミの夢風車「風民(ふうみん)」を、2012年3月より稼働しました。2013年度には、新たに2基の風車プロジェクトへの参画を決定し、5月には秋田県秋田市にて2号機を、6月には秋田県由利本荘市にて3号機を稼働しました。3基合わせ、出力は6,000kWhです。

発電された電力は、再生可能エネルギー全量固定価格買取制度を活用し、全量、東北電力に売電しています。

太陽光発電の取り組み

ワタミグループは、2013年度、ワタミ手づくり厨房(以下、センター)の屋根にルーフソーラーを設置し、太陽光発電を開始しました。2013年度末現在、2カ所のセンターに設置しており、発電した電力は、全量、電力会社に売電しています。

また、2013年度は、株式会社市民ソーラーシステム様と連携して、北海道勇払郡厚真町で、メガソーラー(大規模太陽光発電)を着工しました(発電容量15MW、年間発電量16,000千kWh)。メガソーラーは、2014年12月に本稼働する予定です。

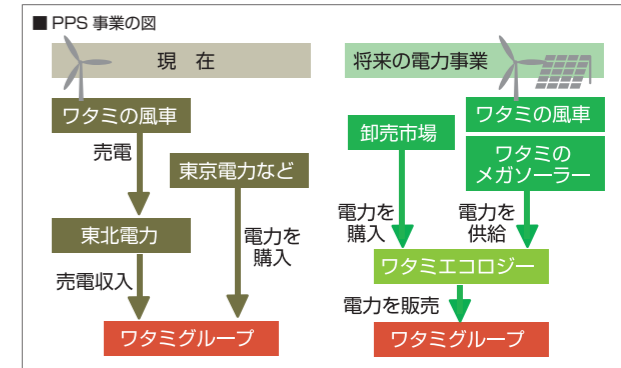


PPS事業への参入

ワタミエコロジーは、2014年5月、PPS(※)事業に参入しました。現在、取り組んでいる風車やメガソーラーから発電される再生可能エネルギーを、2018年以降に計画されている発送電の分離が実現された段階で、ワタミグループの事業施設に供給できる仕組みを構築することで、再生可能エネルギーを日本に普及させていくことができると考えています。

2014年7月末現在、民間発電卸売市場(一般社団法人 日本卸電力取引所様)から電力を調達し、ワタミグループの本社ビル、外食店舗18店舗、介護施設45棟、センター4カ所に供給しています。今後も供給施設数を拡大していけるよう取り組んでいきます。

※ PPS(Power Producer and Supplier、特定規模電気事業者)とは：地域の電力会社(一般電気事業者)以外に、大量の電力を消費する企業や工場など(特定規模需要家)に電力を供給する事業者。



ワタミエコロジーでの取り組み

環境マネジメント

ワタミエコロジーの事業③

ISO14001の管理・推進

ワタミグループは、グループ各社ごとに環境管理責任者を置き、独自の目標を立て、環境活動に取り組んでいます。ワタミエコロジー(株)は、ISO14001の事務局として、グループ各社においてISO14001に基づいた環境マネジメントサイクルが適正に稼働されているかを確認し、環境目標が達成できるようサポートしています。

2013年度も、前年度に引き続き、グループ全社でISO14001の認証を更新することができました。

⇒グループ各社の環境活動については、P48をご覧ください。

「エコ夢サイト」の運営・管理

ワタミグループは、2010年度、環境家計簿「エコ夢サイト(WEBサイト)」を開発しました。エコ夢サイトには、CO₂削減につながる具体的な行動が紹介されている他、社員の日々の生活での電気・ガス・ガソリンの使用量を入力する個人ページが設けられています。自動的にCO₂排出量が換算される仕組みになっており、それぞれの使用量を入力することにより、自らのCO₂排出量を把握し、その削減のために取り組むことを目指しています。

2013年度は、一人ひとりの取り組みにより、社員の生活におけるCO₂排出量を22%削減(2011年度比)することができました。

エコ・ファースト表彰

ワタミエコロジーは、毎年3月の全体会議にて「エコ・ファースト表彰」を行い、他の模範となるようなCO₂削減の取り組みを行った事業施設を表彰しています。また、「エコ夢サイト」に入力されたデータをもとに、優れた結果を残した社員も表彰しており、2013年度は、待機電力を減らすための取り組みを行った社員など、3名を表彰しました。

エネルギーの“見える化”の取り組み

ワタミグループ外食店舗では、2004年度より、「電力の見える化システム」を導入しており、いつ、どこで、どのくらい電気が使用されたのかを計測し、営業時間外・営業時間中のムダ電気の削減に取り組んできました。

2012年度からは、その内容を刷新した「エネルギー(電力)管理システム」をワタミグループの外食店舗と介護施設に導入を進めています。このシステムは、電気使用量をリアルタイムで把握することができるので、各事業施設での節電による効果をより実感できるようになりました。また、電力の受給逼迫の際には、各事業施設の節電分を電力会社に売電するネガワット取引(※)が可能で

2013年度末現在、外食店舗514店舗、介護施設89棟への導入を完了しており、運用改善に活用しています。

※ネガワット取引とは：企業や家庭が節電した電力について、同量を発電したとみなし、電力会社が買い取る制度。

ライトダウンキャンペーンへの参加

ワタミグループは、2007年度より、環境省主催の「ライトダウンキャンペーン」に賛同し、事業施設のライトダウンに取り組んでいます。

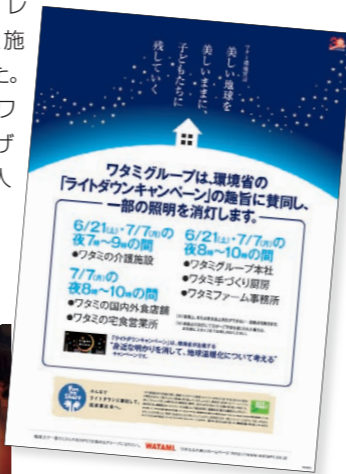
2014年度も継続して、国内の全事業施設にオリジナルポスターを掲示し、節電を呼びかけました。一斉ライトダウンを実施した夏至の6月21日と七夕の7月7日には、ワタミグループ事業施設1,295拠点の一部照明を消灯し、約2,000kWhの電力を削減しました。

また、2014年度は、新たな取り組みとして、ワタミグループが支援する公益財団法人 School Aid Japan(以下、SAJ)が栽培するレモンガラスを使用した「レモンガラスキャンドル」を、福祉施設のご協力のもと作製しました。「レモンガラスキャンドル」は、ワタミグループ内で販売し、売上げの160千円はSAJとNPO法人 Return to Forest Life(以下、RFL)へ寄附しました。

⇒SAJについては、P52・53を、RFLについてはP54・55をご覧ください。



レモンガラスキャンドル



ライトダウンキャンペーン用のワタミグループオリジナルポスター

大分県臼杵市の森林再生事業に参画

ワタミグループは、2014年5月、大分県臼杵市との間で「水源涵養(※)の森林づくり」の協力に関する共同宣言を調印しました。臼杵市が推進する森林再生事業に民間企業として参画し、森林所有者(市民)と行政(臼杵市)とワタミグループが連携して、森林づくりを行っています。

森林づくりの過程で発生した間伐材はワタミグループの外食店舗や介護施設の内装などに、チップはワタミファームの堆肥の原料として利用、優良木は森林所有者へ還元する計画です。

持続可能な森林資源の活用を模索し、森林所有者や地域社会への還元を目指します。

※水源涵養とは：降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる、森林の土壌の機能。また、雨水が森林土壌を通過することにより、水質が浄化される。



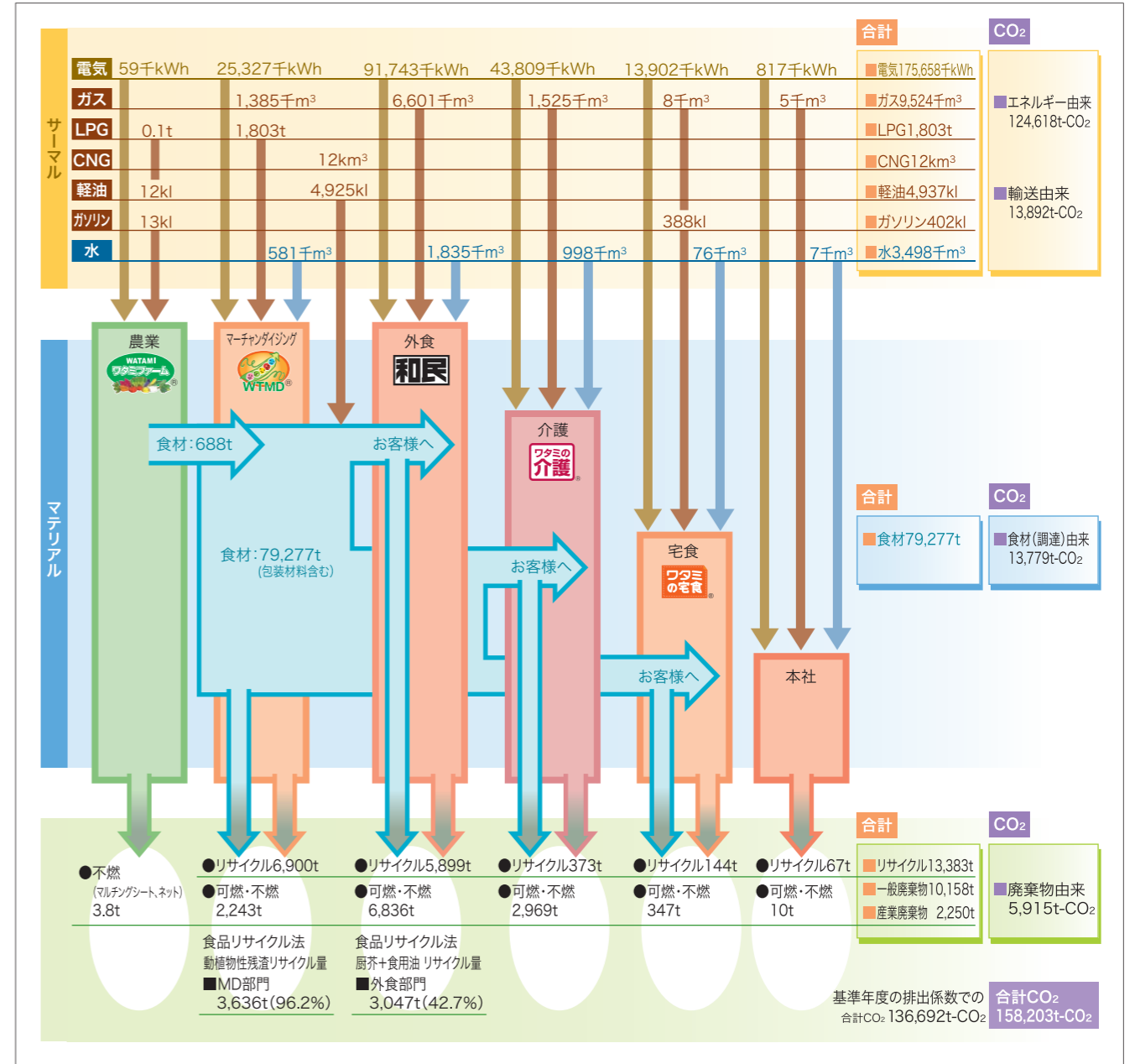
健康な森をつくるため、下草刈りをしている様子

ワタミグループの環境マネジメント

ワタミグループの2013年度の環境負荷

ワタミエコロジーは、「W-ECOビジョン2020」に掲げている「2020年までにCO₂排出量を50%削減(2008年度比、売上高当り)」を達成できるよう、ワタミグループ全事業活動における環境負荷を把握し、次年度の活動に活かしています。

■ワタミグループ マテリアル&サーマル・フロー



【図の見方】①CO₂の排出係数は次の通り設定しています(毎年度変更となる数値です。努力値を見るために、基準年度である2008年度の排出係数を用いて算出した数値も掲載しています)。■2013年度算出係数/電気量:0.543(kg-CO₂/kWh)、都市ガス:2.28(kg-CO₂/m³)、水:0.58(kg-CO₂/m³)、一般廃棄物:0.0175(kg-CO₂/kg)、産業廃棄物:2.55(kg-CO₂/kg)(共通)■2008年度算出係数/電気量:0.421(kg-CO₂/kWh)、都市ガス:2.08(kg-CO₂/m³)、水:0.58(kg-CO₂/m³) ②表記の数値は、年間総計を示しています。(2013年4月1日~2014年3月31日) ③外食店舗における投入量(INPUT)は、以下の方法により算出しています。■エネルギー由来/●電気:「エネルギー(電力)管理システム」導入店舗173店舗の平均単価(円/kWh)を用いて、経理支払い金額(円)を除外して算出しています。●ガス:294店舗の平均単価(円/m³)を用いて、経理支払い金額(円)を除外して算出しています。●水道:請求書から399店舗の平均使用量(m³/店舗)を用いて、店舗数を乗じて算出しています。■輸送由来/対象範囲はワタミファーム(農場・契約農家)→MD(ワタミ手づくり厨房、サテライトセンターなど)、MD(ワタミ手づくり厨房、サテライトセンターなど)→外食店舗・介護施設・宅食営業拠点としています。■食材(調達)由来/主たる食材である肉類の国内外比率を代表数値として用い、全使用食材の総量を按分した数値に移動距離を乗じて算出しています。 ④外食店舗・介護施設における排出量(OUTPUT)は、2013年度の定期計量数値の平均を使用しています。

グループ各社での取り組み

外食店舗への節電の支援・指導【外食事業】

ワタミフードサービス(株)(以下、WFS)は、2011年度より、CO₂排出量を削減するために「環境改善項目」を設定し、節電に取り組んでいます。この改善項目を徹底させるため、各外食店舗には「改善マニュアルビデオ」を用意し、すべての従業員に対し、取り組み内容の浸透を図っています。

2012年度からは、ワタミエコロジー社員が、定期的に外食店舗を巡回し、外食店舗での節電を支援・指導する取り組みを開始しました。これらの取り組みにより、2013年度は、電気使用量を6.2%削減(2012年度比)することができました。

外食店舗へのLED照明の導入【外食事業】

WFSは、2009年度より、外食店舗の内装に積極的にLED照明を導入しています。2012年度からは、看板照明へのLED照明の導入を開始しており、現在では404店舗に導入しています。今後も、改装や電球の交換時を利用して、順次切り替えを行っていきます。

「リターン トゥ フォレスト カクテル」の販売【外食事業】

WFSは、JAPANESE DINING「和民」、語らい処「坐・和民」、炭火やきとりと手づくり料理「わたみん家」において、「リターン トゥ フォレスト カクテル」を販売し、カクテルの販売収益の一部をNPO法人Return to Forest Lifeに寄附しています。

2013年度は、233,261杯を販売し、2,333千円を寄附しました。

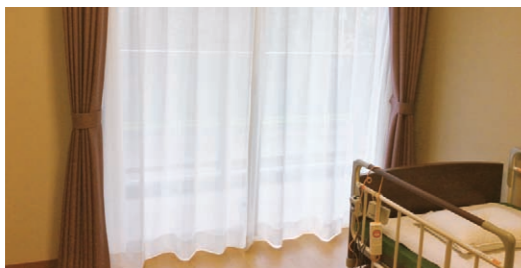


「和民」と「坐・和民」で提供しているカクテル

環境にやさしい介護施設【介護事業】

ワタミの介護(株)は、施設内装の建材として、「ワタミの森」の間伐材を積極的に活用しています。2013年度に開設した介護施設では、ご入居者様の居室のトイレに、間伐材で製作した額が飾られています。2013年度からは、新棟へLED照明の導入を開始しました。演色性(※)にも考慮しつつ、導入数を増やしていけるよう取り組んでいます。また、新棟の居室の窓に「遮熱ガラス」や「遮熱レースカーテン」を採用し、外部からの熱や冷気を遮断、冷暖房効率を上げる取り組みを行っています。

※演色性とは：物の色の見え方と光源の性質の関係。太陽の光を100として、それより数字が低くなるに従い、太陽光のもとでみえる自然色とかけ離れた不自然な見え方になる。



居室に設置された遮熱ガラスと遮熱レースカーテン

お弁当箱の再利用、食のムダを削減【宅食事業】

ワタミタクシヨク(株)は、お客様が使用したお弁当箱を翌日のお届け時に回収し、衛生的に洗浄・殺菌した上、再利用しています。「お料理キット」では、必要なだけ食材をお届けして、家庭に余分な食材が残らないようにしています。また、ご注文を完全予約制にすることによって、お届けする食材を必要量だけ仕入れ、ワタミ手づくり厨房内のロスを無くすことにも努めています。



「東松山の森」での活動【マーチャндаイザング事業】

日本では、工場を建設する際に、防音、防風、防塵などの役目を果たす緑地を工場の周辺に設けることが義務付けられています。

ワタミ手づくりマーチャндаイザング(株)は、義務付けられた緑地をつくるだけでなく、多くの従業員に環境活動に参加してもらう機会として、2011年に稼働したワタミ手づくり厨房東松山センターで、NPO法人Return to Forest Life(以下、RFL)の協力のもと、森づくり活動を開始しました。

2013年度末現在、森づくり活動は計14回実施、約2,480本を植樹しました。2013年11月には、RFLより「東松山の森」として命名され、「ワタミの森」の一つとなりました。

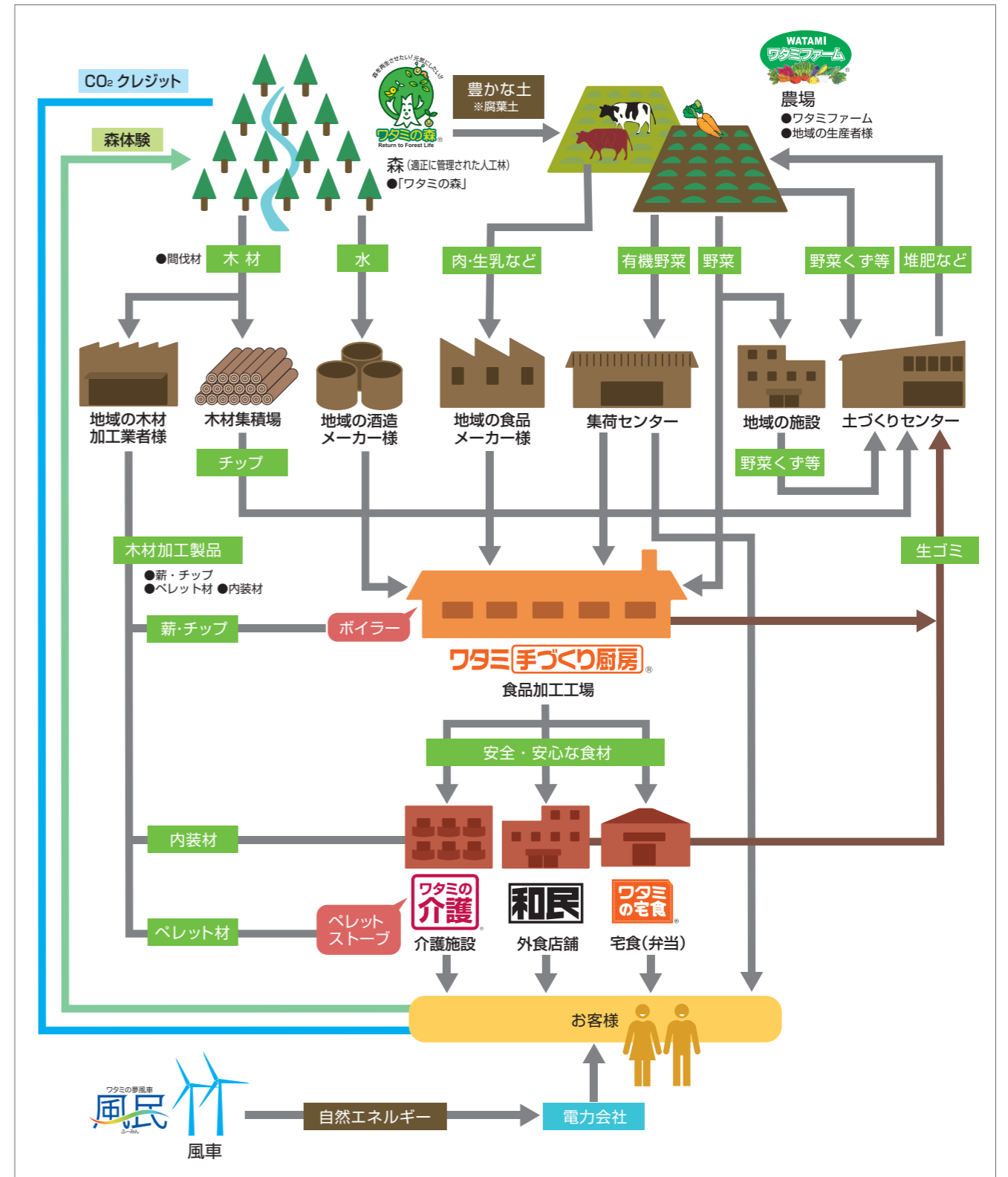


ワタミグループ本社ビルでの節電・紙削減【ワタミ株式会社】

ワタミ(株)は、ワタミグループ本社ビルでの環境負荷低減に取り組んでいます。ビル内の全蛍光灯にキャノピースイッチを設置し、不要な電気の消灯を呼びかけています。また、エアコンとサーキュレーター(※)を併用することで、エアコンのムダな稼働を防ぎ、室内設定温度を夏は28度前後に、冬は22度前後に保つことができている。その他にも、全社員へのFSC認証紙を使用した名刺の展開や、複合機にIC認証カードを導入し、ムダな印刷を防ぐなど、環境負荷低減の取り組みを行っています。

※サーキュレーターとは：室内でのエアコン等による冷暖房では、暖気は上昇、冷気は下降し、室内の上下(天井付近と床面付近)の温度差が大きくなりやすく、エアコンのムダな稼働を引き起こす。このような場合に、エアサーキュレーターを用いて天井へ向けて強い風を送り出すことにより、室内の空気が循環し攪拌され、この温度差をある程度解消することができる。

ワタミグループが目指す循環型社会の全体像



ワタミグループが目指す社会は、すべての命が繋がっている循環型社会です。

命の源である森は、豊かな土をつくり、水(川)を育み、木材という資源を生み出します。豊かな土は、豊かな農場や牧場をつくり、有機野菜の栽培や家畜の飼育が可能になります。豊かな水は、様々な飲料水の原料となります。それらの恵みは、「ワタミ手づくり厨房」などの食品加工工場を経て、外食事業、介護事業、宅食事業を通し、お客様に提供します。また、森の恵みである木材は、外食店

舗や介護施設の内装材料や燃料としても活用され、豊かな生活環境をつくっていきます。さらに、それぞれの過程で排出される廃棄物(有機物)を収集し、「土づくりセンター」で堆肥化して、農場をより豊かにするために再利用していきます。

これら一連の取り組みは、地球温暖化の原因となっている二酸化炭素を削減することにも繋がります。ワタミグループは、この循環型社会を実現させ、「美しい地球を美しいままに未来の子どもたちに残していく」ことを目指しています。



「エコ・ファーストの約束」の宣言

ワタミグループは、2012年度までの目標として宣言した「エコ・ファーストの約束」の結果を受け、2014年度に、2015年度までの社会に対する必達目標として、「エコ・ファーストの約束」を改めて宣言する予定です。

エコ・ファースト企業としてのグループの環境目標^(※1)

1 事業活動における環境負荷を低減します (CO₂削減)

- 2015年度までに次のCO₂削減目標を達成します。
 - ムダな電気の削減の促進や再生可能エネルギーの活用による9%の削減を含め、外食(店舗)、介護、宅食事業でのCO₂排出量を2008年度比、原単位(売上高当り)で30%削減します。
 - 食品製造・卸事業での輸送によるCO₂排出量を2012年度比、原単位(食数当り)で10%削減します。
 - 外食事業の既存店舗でのCO₂排出量を2008年度比、総量で27%削減します。
 - 削減目標達成のため、全事業で認証を取得している環境ISO14001を強化し、日常の環境負荷低減に努めます。

2 循環型社会構築のため、環境改善事業を強化します (3Rの推進)

- 外食および食品製造・卸事業での食品廃棄物(生ゴミ)のリサイクルに努めます。
 - 循環型地域モデル(※2)を2015年度までに2つの地域で構築し実施します。
 - 食品リサイクル・ループ(再生利用事業計画認定制度)を構築した外食店舗200店舗において管理維持を含むリサイクルに努め、2015年度までに外食および食品製造・卸事業の合計の再生利用等実施率70%を達成します。
 - 食品製造・卸事業での廃棄物の発生抑制を推進し、2012年度比、原単位(売上高当り)で15%削減します。
 - リユース社会構築のため、リサイクルさせていた日本酒ビンのリユースの取り組みを促進し、2015年度までに関西地域(大阪府、京都府、奈良県、兵庫県、滋賀県、和歌山県)の全店舗に拡大します。
 - 安全・安心な循環型社会構築のため、管理農地面積を2015年度までに800haへ拡大し、グループでの有機農産物および特別栽培農産物の仕入れ量比率を60%にします。
 - 食べ残し削減について取組み、廃棄物の発生抑制に努めます。

3 グループ社員の環境意識を向上させ、日々の環境改善を推進します (社員の行動)

- 「エコ夢サイト」(環境家計簿)を活用することによって、グループ会社の社員の環境意識を向上させ、生活で排出するCO₂を2015年度に一人当たり19%削減(2011年度比)します。
- さらに社員の環境教育を促進し、パート・アルバイトメンバーを含め、生活で排出するCO₂を2020年度までに一人当たり30%削減(2011年度比)を目指します。

4 森林保全などの環境活動に取り組む地域やNPOの活動を応援します (社員の行動)

- 環境教育や森林保全に取り組むための「ワタミの森」の活動を促進します。
- 外食店舗や介護施設などで間伐材などのバイオマスを活用するとともにNPOや地域の活動を応援し、森林保全に貢献します。
- J-クレジット制度を活用し森林保全に取り組む地域を応援します。

※1 今後、環境省の審査を経て、「エコ・ファーストの約束」として発表。

※2 循環型地域モデルとは：有機物等の資源循環により、持続可能となった地域のこと。P49の「ワタミグループが目指す循環型社会の全体像」の図を参照。